

中京院大で ドローン講義

中津川市千旦林の中京学院大中津川キャンパスで、ドローンの操作技術や活用例、関連法令を学ぶ講義が本年度から始まった。省人化などの地域課題の解決策の一つとして、ドローン分野のビジネスチャンスが拡大しており、同大は学生の起業、専門企業の就職時に役立つとしてカリキュラム化した。経営学部教授は「経営学部生がドローンを学ぶのは全国初ではないだろうか」と胸を張る。(富樫一平)



学生の起業へカリキュラム化

経営学部生、民間資格目指す

ドローンについて学べるのは、同学部1年生73人全員が受講する前期必修科目「ドローン」。ドローン関連事業を手がけるROBOZ(ロボット、恵那市)と連携し、同社員が講師を務める座学と実習で専門知識の習得につなげる。座学では、同社の石田宏樹社長が講話で、起業時に感じたビジネス性を振り返るなど、より実践的な学びにつなげていく。キャンパス内の体育館で行われた実習では、学生自身が小型ドローンを操作し、障害物を避けながらレースを繰り広げた。また同社員が産業用ドローンを遠隔操作するデモンストレーションもあり、学生は大学上空の空撮映像を見ながら、サーモカメラに切り替えると災害時の救助活動など多分野での活用が見込めることなど、ドローンの有用性について考えを深めた。今後はドローンで空撮映像を撮り、映像を編集してプロモーションビデオを制作する。後期の選択科目では、ドローンの民間資格の取得を目指す。築瀬教授は「比較的内容にドローンを飛ばせる環境下にある地方の大学の強みを生かした講義。今後も社会に求められる人材を輩出した」と語った。

小型ドローンを動かし、操縦のこつを学ぶ学生
＝中津川市千旦林、中京学院大中津川キャンパス